



黒釉麻変壺 / 径217・高さ215mm



陶石釉麻変茶碗 / 径137・高さ86mm



黒釉麻変筒茶碗 / 径101・高さ85mm

鶴野啓司 展 名もなき土

2020年11月21日(土)～29日(日) 作家在廊日 11/21(土)、22(日) 喫茶会 11/22(土)、23(日)、28(日)



料金後納  
ゆうメール



窯変粉引茶碗 / 径135・高さ69mm



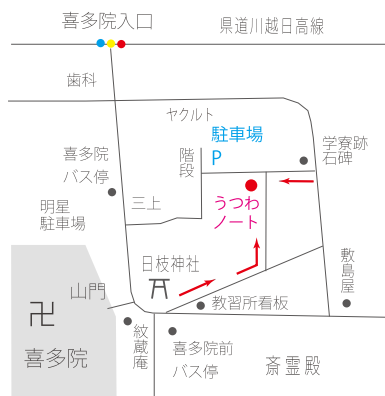
黒釉窯変茶碗 / 径141・高さ74mm



粉引筒茶碗 / 径117・高さ79mm

鶴野啓司展 名もなき土

二〇二〇年十一月二十一日(土)～二十九日(日) 十一時～十八時 作家在廊日 十一月二十一日・二十二日



### ギャラリー うつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6  
TEL 049-298-8715  
MAIL utsuwanote@gmail.com

電車：川越駅(東武東上線・J丸)より徒歩25分  
本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分  
バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]  
駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]  
車：ギャラリー専用駐車場3台分有

1967年 栃木県大田原市生まれ  
1990年 大学卒業後、会社勤務  
1994年 栃木県窯業指導所修了  
1994年 栃木県益子町にて独立  
2020年 現在同地にて制作

### 鶴野啓司 略歴

鶴野さんは「名もない土」を使いたいと言います。それは窯業地の由緒ある土ではなく、身の回りから手に入る名もなき土です。決して使い易い土ではありません。その分、土ごとの豊かな個性が活かされています。伝統的なセオリーに沿っていない分、むしろ先入観無しに焼き物本来の美しさに気づくのです。しかし原土を使い薪窯で焼成したからといって、決して良い器が出来る訳ではありません。狙いなく焼けば、驚くほど凡庸な器になる事はままあります。鶴野さんは、土造り、釉薬造り、ろくろ挽きの段階からどのような窯焚きにするかをイメージしながら進めていきます。単味の土の粗さ加減、釉薬の目の細かさ、ろくろの造りなど、約3ヶ月の一連の作業を通して、最終工程の窯焚きに意識を集中させていきます。どう釉薬を溶かすか、どう土から個性を引き出すか、その都度狙いを定めて工夫を重ねていきます。一連の工程の中で最終段階となる窯焚きは、最も鶴野さんらしい器が生まれる瞬間です。それは土造りの時から想定した窯焚きを実現するとき。時にはエンジンをふかすように薪をくべて窯を焚くと言います。毎回細かな調整をしながら新たな試みを行います。鶴野さんの窯焚きはリスクを恐れず安定を狙いません。しかし加減を超えたそこに生れる現象は唯一のもので。焼き物は、人類が物質の化学的变化を応用した最初のできごとです。きっと縄文時代以来、人々が焼き物に求めたのは実用と同時に、土を焼くことで得られる神秘的な体験だったのではないのでしょうか。久しぶりの鶴野さんの個展です。今展は自ら茶碗と壺を主体にして臨みたいのご意思です。焼き物作家として勝負の為所でしょう。貴重な機会になりそうで楽しみです。

店主

### 茶人・藤香の喫茶会のご案内

鶴野啓司さんの茶碗を使った喫茶会を開催します。日頃から茶道や煎茶を通じて古典から現代までお茶と道具を自由に取り入れる茶人・藤香さんと鶴野さんの器の在り方に共通点を感じました。形式的な茶道スタイルではなく、鶴野さんの器をイメージして抹茶とお菓子を愉しむ喫茶会です。持ち物不要で服装も自由です。器を通して、お茶を通して素敵な時間をお過ごしください。

日時：11月22日(日曜日) 13:30の回 16:00の回 所要40程度 予約優先  
11月23日(月祝日) 13:30の回 16:00の回  
11月28日(土曜日) 13:30の回 16:00の回

人数：各回3～4名様

会費：おひとり様 2000円

申込：表題を「茶会予約」とし、下記内容を記載のうえ「utsuwanote@gmail.com」宛にメールでお申込みください。

ご希望日時、人数、お名前、携帯電話番号、返信用メールアドレス(PCメールが受信可のもの)